

学内実習における教員の基礎看護技術の実施状況と指導方法

大津 廣子¹, 佐藤 美紀¹, 滝内 隆子², 足立みゆき³

The Instruction Methods and Status of Implementation of Basic Nursing Skill in Lab Training

Hiroko Otsu¹, Miki Sato¹, Takako Takiuti², Miyuki Adati³

【目的】看護教員の学内実習における基礎看護技術の技術項目の実施状況と指導方法について、教育機関間の比較を通して明らかにすることを目的とした。

【方法】調査協力が得られた看護専門学校（2年課程・3年課程）、高等学校（5年一貫課程）、看護系大学に勤務する看護教員550名に自記式質問紙調査を行った。

【結果】有効回答数は499名であった。2年課程、3年課程、看護系大学の多くの教員が学内実習で実施していた技術項目は、清潔に関する技術や、移動に関する技術、感染予防に関する技術であった。2年課程の教員の学内実習における実施状況は、生活に関する技術、診療に関する技術のいずれにおいても、3年課程や看護系大学教員よりも未実施が有意に高い項目が多かった。指導方法は、デモンストレーションを実施している教員が多かった。

【考察】2年課程、3年課程、看護系大学の教員の実施状況から、学内実習では、清潔に関する技術、移動に関する技術、感染予防に関する技術の習得を重視して指導していることがうかがえる。今後は、よりよいデモンストレーションの方法について検討を重ねる必要がある。

キーワード：学内実習、基礎看護技術、実施状況、指導方法、看護教員

I. はじめに

専門職の規準には、長期教育により獲得する理論・知識と高度の学識に裏づけられた技術の保有が一つの要件として含まれている¹⁾。したがって看護職が専門職として評価されるためには、看護の専門化された技術の保有は必須の要件である。特に看護実践能力の向上を意図して改正された21年カリキュラム改正以降、看護基礎教育においては、臨床現場が求めている実践能力を勘案し、どのような技術項目を学生に習得させればよいのか、どのような指導方法が適切なのか模索している現状である。

臨床現場では厚生労働省が公表した「新人看護職員研修ガイドライン」²⁾を参考に看護技術の研修がなされている。そのガイドライン公表後に臨床現場の研修で指導

されている看護技術項目の調査をみると、診療の補助業務に関する技術項目が多く、清潔や排泄など療養上の生活に関する技術項目は少ない状況であり、それらの教え方は講義やチェックリストの使用が中心でデモンストレーションを用いた指導は少ない³⁾。

そのような現状では、すくなくとも療養上の生活に関する技術項目は、看護基礎教育において、専門職として求められる技術まで習得させておく必要があるといえるが、基礎看護技術を担当している教員は、学内実習においてどのような技術項目を学習内容として取り上げ実施しているのだろうか。

さらに、専門職として求められる技術のレベルは、自然に自分の身体が動くようになる「自動化」への段階、つまり技術が身についている暗黙知の修得でなければならないと考える。そのような技術を習得する第一段階は

¹愛知県立大学看護学部（基礎看護学）、²岐阜大学医学部看護学科、³滋賀医科大学医学部看護学科

模倣であり、そのために教員はデモンストレーションを活用し良い見本を見せることが求められる。

最近の看護基礎教育における看護技術の指導方法をみると、鏡的利用としてのVTR学習やVTRを用いたフィードバックの報告^{4)~6)}にもみられるようにVTRが効果的な教育機器のひとつであるとして技術指導の方法として多用されており、最近ではUSBカメラを利用した技術教育方法⁷⁾の報告もみられる。

しかし、生田⁸⁾は、VTRはあくまでも「形」の模倣にかぎってのみ有効であり、「形」の意味を模倣や繰り返しの中で自ら生成し、身体全体を通して解釈し自らの主体的な動きにしていくという「型」の習得には直接的な効果はないと指摘している。人が動作や行動などの動きを修得するプロセスに共通している特徴は、全体的な模倣から出発するという点である⁸⁾。それゆえに、看護技術教育においても、学習者はデモンストレーションなどで示された動作を観察し、知識を想起させながら行動するという「模倣」に始まり、それを繰り返すことでその動きを習熟していくと考えられるが、看護技術を指導する教員はデモンストレーションをはじめ、DVD、チェックリストなどの指導方法をどれだけ実施しているのだろうか。

そこで、筆者らは看護実践能力の強化を意図し改正された21年度カリキュラム以降の基礎看護技術の「教え方」について調査を行った。本稿では、その一部である看護教員の学内実習における基礎看護技術の技術項目の実施状況と指導方法について、教育機関間の比較を通して明らかにしたので報告する。

II. 用語の定義

1. 学内実習：学校内の実習室を使用して、学生が看護技術を体験・実施すること。
2. デモンストレーション：教員が自ら看護技術を演じて学生に見せること。
3. ロールプレイ：状況を設定し役割（看護師役、患者役）を決め、学生自らが演じること
4. シミュレーター：人体を模して造られたモデル（腕モデル、臀部モデルなど）のこと。

III. 研究方法

1. 対象

研究対象は、看護系大学や看護専門学校において基礎看護技術の単元責任者として講義を担当し、学内実習で基礎看護技術の指導をしている看護教員であり、研究協力の承諾が得られた550名である。

2. 調査方法

調査は、無記名の自記式質問紙を用いて実施した。

「看護学校便覧2009（医学書院）」に載っている全国の看護系大学、看護専門学校（3年課程、2年課程）の計944校に郵送で、基礎看護学領域において基礎看護技術の単元責任者であり講義を担当し、学内実習で看護技術を指導している教員1～2名の紹介を依頼し、研究協力の承諾が得られた教員に調査票を郵送した。尚、調査期間は平成22年10月～平成23年3月である。

3. 調査内容

- 1) 対象者の属性として、看護教員の年齢、性別、資格、最終学歴、所属機関の教育課程、教員経験年数、技術に関する研修会参加の有無について回答を求めた。
- 2) 技術項目は、看護専門学校および看護系大学で主として使用されている基礎看護技術のテキスト^{9)~12)}と厚生労働省が提示している「新人看護職員ガイドライン」²⁾の技術項目を参考にして、診療の援助に関する技術、生活の援助に関する技術を抽出し、基礎看護技術を担当している研究者間で討議を重ね80項目を選択した。その看護技術（80項目）について、学内実習を実施している技術項目、学内実習における技術の指導方法（DVDの使用、デモンストレーションの実施、ロールプレイ、シミュレーター、チェックリストの使用）について、複数回答を求めた。

4. 分析方法

生活の援助に関する項目（36項目）、診療の援助に関する項目（44項目）を、学内実習の技術項目の実施率、各指導方法の実施状況について、看護教員の所属別（2年課程、3年課程、看護系大学）に分析した。データの分析にはIBM SPSS Statistics Ver. 20.0を使用し単純集計、 χ^2 検定を行った。有意確率は5%未満とした。

5. 倫理上の配慮

調査依頼文に、研究目的、方法、調査により得られた情報は研究以外の目的には使用しないこと、論文作成及び発表の際には施設名や個人が特定されないように配慮すること、調査への参加は看護教員の自由意思であり、研究に協力しないことでも不利益が生じないこと、調査表の回答をもって調査に同意を得たものとする旨を明記した。尚、本研究は愛知県立大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

IV. 結 果

1. 対象者の概要

有効回答数は、欠損値を除いた499であった。

回答が得られた499名の性別は女性98.4%、男性1.6%であり、平均年齢は44.7歳 (SD7.14) である。所属機関別では、看護専門学校3年課程 (以下、3年課程という) の平均年齢が、看護専門学校2年課程 (以下、2年課程という)、看護系大学・短大 (以下、看護系大学という) よりも低かった。看護教員としての平均経験年数は、10.5年 (SD7.05) であり、所属機関別では、3年課程教員の経験年数が2年課程や看護系大学の教員よりも少なかった。

専門最終学歴は、3年課程が49.9%と最も多く、次いで2年課程が13.2%であった。看護系大学は5.8%、大学院修士課程は10.6%でありそのほとんどは看護系大学の教員であった。看護技術に関する研究会・研修会の参加については、85%以上の教員が参加しており、所属機関別の差はみられなかった (表1)。

2. 学内実習の実施状況

1) 生活の援助に関する技術

生活の援助に関する技術項目 (36項目) について教員の所属別の実施状況をみると8割～9割以上の教員が実施している項目は、看護系大学では36項目中「清拭 (96.8%)」「車椅子移乗と移送 (96.8%)」「寝衣交換 (95.7%)」など15項目であり、3年課程では14項目、2年課程では「清拭 (84.0%)」「車椅子移乗と移送 (81.8%)」「寝衣交換 (82.5%)」の3項目であった。反して、3課程において2割未満の教員しか実施していない項目は「入眠・睡眠の援助」「入浴介助」「ツボ刺激によるリラクゼーション」などの6項目であった。

2年課程、3年課程、看護系大学 (以下、3課程とい

う) の技術項目の実施状況を比較すると、36項目中、24項目において実施状況に有意差が見られた。「おむつ交換」の実施は3年課程が2年課程や看護系大学の実施よりも有意 ($p < 0.001$) に高かった。反して「清拭」「車椅子移乗と移送」「ベッドメイキング」「体位変換」「洗髪」「脈拍測定」「呼吸測定」「血圧測定」「尿器・便器の介助」「食事介助」「足浴」「口腔ケア」「ストレッチャーの移乗と移送」などの17項目は、3年課程や看護系大学の教員の実施に対して2年課程教員の未実施が有意 ($p < 0.001$) に高かった (表2)。

2) 診療の援助に関する技術

診療の援助に関する技術項目 (44項目) について教員の所属別に技術項目の実施状況をみると、8割～9割以上の教員が実施している項目は、看護系大学では44項目中「衛生的手洗い (94.6%)」「無菌操作の実施 (92.5%)」「滅菌手袋の着脱 (92.5%)」「筋肉内注射 (90.3%)」など7項目であり、3年課程では8項目、2年課程では0項目であった。2年課程では「衛生的手洗い (75.2%)」「筋肉内注射 (73.0%)」の2項目は、7割の教員が実施していた。反して、3課程とも2割未満の教員しか実施していない項目は「麻薬の副作用の観察」「抗生物質の副作用の観察」「薬剤等の管理」「人工呼吸器の管理」の4項目であった。

3課程の実施状況を比較すると、44項目中、30項目において有意差がみられた。3年課程教員の実施が2年課程や看護系大学教員よりも有意 ($p < 0.001$) に高く実施していた項目は「包帯法」であった。

一方、「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」「静脈血採血」「一時的導尿」「ガウンの着脱」「浣腸」など11項目は、3年課程や看護系大学の教員よりも2年課程教員の未実施が有意 ($p < 0.001$) に高かった。また、「輸液ポンプの準備と管理」「閉鎖式心臓マッサージ」「気管内吸引」「気道確保」は、看護系大学教員の方が2年課程教員、3年課程教員よりも未実施が有意 ($p < 0.001$) に高かった (表3)。

3. 学内実習における指導方法

9割以上の教員が学内実習を実施していると回答した「清拭」「車椅子移乗と移送」「寝衣交換」の指導方法を教員の所属別にみると、「清拭」では、3年課程の7割以上の教員はデモンストレーションとチェックリストを用いて指導しており、看護系大学教員の7割以上はデモン

表1 対象者の属性

項 目		全体 (n=499)		看護専門学校 (2年) (n=137)		看護専門学校 (3年) (n=269)		看護系大学・ 短大 (n=93)	
		mean	SD	mean	SD	mean	SD	mean	SD
年齢(歳) (最少~最大)		44.7	7.14 (28~64)	46.1	8.12 (28~64)	43.5	6.55 (30~60)	46.0	6.68 (29~61)
教員経験年数 (最少~最大)		10.5	7.05 (0.09~40)	10.9	8.05 (0.09~40)	9.6	6.34 (0.09~33)	12.5	7.02 (1~32)
		n	%	n	%	n	%	n	%
性別	男性	8	1.6	2	1.5	4	1.5	2	2.2
	女性	491	98.4	135	98.5	265	98.5	91	97.8
資格	保健師	57	11.4	9	6.6	17	6.3	31	33.3
	助産師	35	7	14	10.2	15	5.6	6	6.5
	看護師	495	99.2	134	97.8	268	99.6	93	100
	准看護師	31	6.2	19	13.9	11	4.1	1	1.1
一般最終 学歴	高等学校	220	44.1	67	48.9	149	55.4	4	4.3
	短期大学	48	9.6	30	21.9	17	6.3	1	1.1
	大学	135	27.1	34	24.8	84	31.2	17	18.3
	大学院	91	18.2	5	3.6	16	5.9	70	75.3
	その他	5	1	1	0.7	3	1.1	1	1.1
専門最終学歴	専門学校(2年課程)	66	13.2	32	23.4	32	11.9	2	2.2
	専門学校(3年課程)	249	49.9	53	38.7	180	66.9	16	17.2
	看護短大(2年課程)	16	3.2	11	8	4	1.5	1	1.1
	看護短大(3年課程)	38	7.6	11	8	15	5.6	12	12.9
	保健師学校	2	0.4	1	0.7	5	1.9	1	1.1
	助産師学校	20	4	11	8	7	2.6	2	2.2
	保健師助産師学校	10	2	5	3.6	5	1.9	0	0
	看護系大学	29	5.8	7	5.1	11	4.1	11	11.8
	看護系大学院修士課程	53	10.6	1	0.7	11	4.1	41	44.1
	看護系大学院博士課程	7	1.4	0	0	0	0	7	7.5
その他	9	1.8	5	3.6	4	1.5	0	0.0	
看護技術に関する研 究会, 研修会参加	参加あり	426	85.4	117	85.4	229	85.1	80	86
	参加なし	73	14.6	20	14.6	40	14.9	13	14

ストレーションとロールプレイによる指導をしていた。

「車椅子移乗と移送」では、3年課程と看護系大学の教員はデモンストレーションを用いた指導が他の指導方法よりも多く、2年課程の教員はロールプレイによる指導が他の指導方法よりも多かった。

「寝衣交換」では3年課程の教員はデモンストレーションによる指導が他の指導方法よりも多いが看護系大学の教員はロールプレイによる指導が他の指導方法よりも多かった(表4)。

診療の援助技術において8割以上の教員が学内実習を実施していると回答した「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」「筋肉内注射」の指導方法を教員の所属別にみると、「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」では、3年課程、看護系大学教員ともに7割～8割の教員はデモンストレーションによる指導を実施していた。2年課程ではデモンストレーション

による指導をしている教員は4割～5割と3年課程や看護系大学教員よりも少なかった。

「筋肉内注射」の指導は、2年課程、3年課程、看護系大学ともに、デモンストレーションの実施とシミュレーターを使用して指導している教員が多くみられた。看護系大学教員は、2年課程、3年課程教員よりもDVDを使用した教員の割合が多かった(表5)。

総じてみると、生活援助技術である「清拭」「車椅子移乗と移送」「寝衣交換」の指導では、3年課程教員はデモンストレーションとチェックリストを用いた指導を行っている教員が多く、看護系大学教員はデモンストレーションとロールプレイによる指導が多く、2年課程教員はロールプレイとチェックリストを用いた指導が多くみられた。また、診療の援助技術である「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」「筋肉内注射」の指導は、3年課程、看護系大学教員はデモンストレーショ

表4 生活の援助技術(9割以上の実施率)で実施している所属別指導方法の割合

技術項目	所属	指導方法	DVDなどの視聴覚教材の使用		デモンストレーションの実施		ロールプレイによる演習		シミュレーターの使用		チェックリストの使用	
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
清拭	2年課程	n=137	36	26.3	60	43.8	75	54.7	6	4.4	82	59.9
	3年課程	n=269	137	50.9	215	79.9	162	60.2	26	9.7	200	74.3
	看護系大学	n=93	43	46.2	68	73.1	67	72.0	8	8.6	56	60.2
車椅子移乗と移送	2年課程	n=137	38	27.7	74	54.0	84	61.3	5	3.6	73	53.3
	3年課程	n=269	100	37.2	218	81.0	156	58.0	12	4.5	143	53.2
	看護系大学	n=93	44	47.3	73	78.5	64	68.8	2	2.2	46	49.5
寝衣交換	2年課程	n=137	29	21.2	67	48.9	77	56.2	13	9.5	78	56.9
	3年課程	n=269	93	34.6	206	76.6	155	57.6	23	8.6	160	59.5
	看護系大学	n=93	39	41.9	63	67.7	69	74.2	6	6.5	51	54.8

表5 診療の援助技術(8割以上の実施率)で実施している所属別指導方法の割合

技術項目	所属	指導方法	DVDなどの視聴覚教材の使用		デモンストレーションの実施		ロールプレイによる演習		シミュレーターの使用		チェックリストの使用	
			人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
衛生的手洗い	2年課程	n=137	35	25.5	68	49.6	50	36.5	3	2.2	45	32.8
	3年課程	n=269	105	39.0	192	71.4	113	42.0	6	2.2	122	45.4
	看護系大学	n=93	46	49.5	68	73.1	41	44.1	4	4.3	48	51.6
無菌操作の実施	2年課程	n=137	41	29.9	70	51.1	93	67.9	3	2.2	55	40.1
	3年課程	n=269	94	34.9	210	78.1	143	53.2	5	1.9	133	49.4
	看護系大学	n=93	45	48.4	74	79.6	44	47.3	1	1.1	44	47.3
滅菌手袋の着脱	2年課程	n=137	33	24.1	71	51.8	41	29.9	3	2.2	48	35.0
	3年課程	n=269	90	33.5	205	76.2	114	42.4	2	0.7	121	45.0
	看護系大学	n=93	44	47.3	76	81.7	42	45.2	0	0.0	43	46.2
筋肉内注射	2年課程	n=137	48	35.0	64	46.7	25	18.2	79	57.7	49	35.8
	3年課程	n=269	126	46.8	90	70.6	95	35.3	171	63.6	138	51.3
	看護系大学	n=93	45	48.4	69	74.2	27	29.0	72	77.4	49	52.7

ンを使用して指導している教員が7割～8割と多くみられた。また「筋肉内注射」ではデモンストレーションとシミュレーターを用いて指導している教員の割合が6割～7割であり、他の技術の指導より多かった。

2年課程教員は、デモンストレーションを実施して指導している教員の割合は4割から5割程度であった。

IV. 考 察

生活に関する援助技術の実施状況は、看護系大学、3年課程の8～9割以上の教員は、36項目中14～15項目を学内実習で実施していたが、2年課程では3項目と少ないことが明らかになった。3課程の多くの教員が学内実習で実施していた技術項目は、「清拭」「洗髪」「寝衣交換」など清潔に関する技術や、「車椅子移乗と移送」「体位変換」など移動に関する技術などであった。このことは、看護教員が清潔の援助や、移動の援助の学習を重視していると考えられる。一方、診療に関する援助技術の実施状況は、看護系大学、3年課程の8～9割以上の教員は、44項目中7～8項目を学内実習で実施しており、2年課程では0項目であることが明らかになった。看護系大学、3年課程の多くの教員が学内実習で実施していた技術項目は「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の装着」など感染予防に関する技術であり、看護教員が感染予防に関する技術の習得を重視して指導していることがうかがえる。

2年課程の教員の学内実習における実施状況は、生活に関する技術、診療に関する技術のいずれにおいても、3年課程や看護系大学教員よりも未実施が有意に高い項目が多い。

このことは、わが国の2年課程が准看護師養成所や高等学校で学習し准看護師の資格を有して進学してくる課程であることが影響しているといえる。准看護師教育のカリキュラムでは基礎看護技術(210時間)を学習している¹³⁾ことから2年課程の教員は、清潔・衣生活に関する技術や移動・活動に関する項目、排泄に関する項目、注射に関する項目などは、すでに学習してきていると考え、3年課程や看護系大学教員よりも未実施が多くなったと考えられる。しかし、3年課程や看護系大学の実施率より低いものの2年課程においても7割から8割は実施している技術項目もみられることは、21年カリキュラムの改正意図が反映された結果であると考えられる。特に、実施率が高かった「清拭」「車椅子移乗と移送」「寝衣交

換」の指導方法としてロールプレイによる演習を用いた指導をしている教員の割合が多かったことは、看護師等養成所の運営に関する指導要領¹³⁾に記載されている「事例等に対して看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ内容、演習を強化する内容」という2年課程の留意点を意識し指導しているのではないかと推測される。

「おむつ交換」技術の実施は、3年課程の実施が2年課程や看護系大学の実施より有意に多かった。このことは、「おむつ交換」技術の指導は、大学においては在宅看護学や老年看護学の学習内容として、基礎看護学の学習内容に含んでいないことが推測される。しかし、臨床における患者は高齢者が多く、おむつ交換の場に遭遇する機会が多い。それゆえに基礎看護学においても学内実習では、おむつの装着を体験しおむつ交換の技術を習得させる必要があるといえる。

「輸液ポンプの準備と管理」「閉鎖式心臓マッサージ」「気管内吸引」「気道確保」は、看護系大学教員の方が2年課程、3年課程教員よりも未実施が有意に高かった。これらの技術項目は、看護系大学では成人看護学で学習させているために今回の調査では未実施が多くなったと考える。

新人看護職員研修における看護技術の指導の有無をみると、7割以上の新人看護師が指導を受けた技術項目は、診療の補助業務に関する項目が14項目であったのに対し、療養生活の援助に関する技術は0項目であった³⁾ことを勘案すると、3年課程、看護系大学において「清拭」「車椅子の移乗と移送」「寝衣交換」「ベッドメイキング」など清潔の援助技術や、移動・移送の援助技術、排泄の援助技術などの技術項目が学内実習で多く実施されていたことは、望ましい結果であるといえる。ただ、リラクゼーションなど安楽への援助は看護専門職として基本的な援助であるにも関わらず、学内実習の実施が2割未満と少なかった。このことは教員の安楽に関する技術習得への意識が低いことが影響していると推測される。看護技術を担当する教員は、安楽への援助技術は看護専門職として必要な援助技術であることを再認識し学内実習で実施し、学生に習得させるような方法を検討する必要があるといえる。

今回の調査結果では、生活の援助技術項目は、3年課程、看護系大学教員では実施している教員が多かったが、看護技術はその技術を学生に定着させるところまで指導を強化する必要がある。それには、学内実習においてどのように指導するのか指導方法の検討が重要である。

そこで、実施率が高かった「清拭」「車椅子移乗と移送」「寝衣交換」「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」などの指導方法についてみると、DVDなどの視聴覚教材の使用は予想に反して4割程度と少なく、3年課程、看護系大学の7割～8割の教員はデモンストレーションを実施して指導していたことが明らかになった。

生田⁸⁾が述べているように、VTRはあくまでも「形」の模倣にかぎってのみ有効であることから、VTRを見せるだけの指導方法では、本来の看護技術の指導であると言えないのである。その意味で今回の結果はデモンストレーションを実施している者が比較的多くみられ望ましい状況であるといえる。しかし、デモンストレーションは、黙って動作を見せるのみでは効果はなく、よりよいデモンストレーションは、看護教員の身体の使い方、無駄のない身体の動き、その動きを学習者がイメージできるような指導言語の用い方が重要な要素となる。「教え方」の調査によると、デモンストレーションは看護技術を教える方法としてよいと思っているものの、自ら演じて技術を見せることは苦手であり、その時の説明は不得手であると感じている教員が多い実態であった¹⁴⁾。それゆえに、今後は、看護教員がどのようなデモンストレーションを実施しているのかについてもその実態を明らかにし、看護技術教育のよりよいデモンストレーションの方法について検討を重ねる必要があると考える。

V. 結 論

本研究の結果から次のことが明らかになった。

1. 3年課程、看護系大学の多くの教員が学内実習で実施していた技術項目は、生活に関する援助技術では、「清拭」「洗髪」「寝衣交換」など清潔に関する技術や、「車椅子移乗と移送」「体位変換」など移動に関する技術などである。
2. 3年課程、看護系大学の多くの教員が学内実習で実施していた技術項目は、診療に関する援助技術では「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の装着」など感染予防に関する技術である。
3. 2年課程の教員の学内実習における実施状況は、生活に関する援助技術、診療に関する援助技術のいずれにおいても、3年課程や看護系大学教員よりも未実施が有意に高い項目が多い。
4. 今回の調査で実施率が高かった「清拭」「車椅子移乗

と移送」「寝衣交換」「衛生的手洗い」「無菌操作の実施」「滅菌手袋の着脱」などの指導方法では、3年課程、看護系大学の7割～8割の教員はデモンストレーションを実施して指導している。2年課程の教員はデモンストレーションよりもロールプレイによる演習の指導が多い。

VI. 謝 辞

本研究を実施するにあたり、調査に快く協力していただきました看護教員の皆様に心から感謝申し上げます。

なお、本研究は平成22年度科学研究費助成事業、基盤研究(C) (課題番号:22592394 研究代表者:大津廣子)による助成を受けて行った研究の一部である。

引用文献

- 1) グレイス・L・デロウリィ著, 千野静香訳: 専門職看護の歩み, 日本看護協会出版会, 346, 1979.
- 2) 厚生労働省: 新人看護職員研修ガイドライン, 2009.
- 3) 西尾亜理紗, 大津廣子: 新人看護職員研修における看護技術の「教えられ方」の現状と課題, 愛知県立大学看護学部紀要, 18: 31-38, 2012.
- 4) 斎藤茂子, 高橋弘子: 臥床患者のシーツ交換の実技評価: VTRを用いて, 日本看護学教育学会誌, 6(2): 154, 1996.
- 5) 須藤聖子, 今井晶子, 青山美智代他: 「基礎看護技術」の演習に学生のVTRを取り入れた学習効果の検討, 奈良県立医科大学看護短期大学紀要, 4: 68-73, 2000.
- 6) 片桐雅子, 犬塚久美子, 桜井文子他: 看護技術修得過程におけるVTR教材の検討, 聖隷学園浜松衛生短期大学紀要, 23: 36-40, 2000.
- 7) 吉川美加, 池田えり子, 清水憲二: USBカメラを利用した介護技術教育の方法, 東京文化短期大学紀要, 24: 25-28, 2007.
- 8) 生田久美子: コレクション認知科学6—「わざ」から知る, 78, 東京大学出版, 2007.
- 9) 氏家幸子, 阿曾洋子, 井上智子: 基礎看護技術Ⅰ, 医学書院, 2009.
- 10) 氏家幸子, 阿曾洋子, 井上智子: 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2009.
- 11) 深井喜代子編: 新体系看護学全書11 基礎看護技術Ⅰ, メジカルフレンド社, 2007.

- 12) 深井喜代子編：新体系看護学全書12 基礎看護技術Ⅱ. メジカルフレンド社, 2007.
- 13) 門脇豊子, 清水嘉代子, 森山弘子：看護法令要覧平成24年版. 116-117, 2012.
- 14) 大津廣子, 佐藤美紀, 滝内隆子他：看護教員の看護技術の「教え方」に対する意識. 日本看護学教育学会誌. 22 : 302, 2012.